

広報   
No.704  
令和4年

# いいたて

10  
2022

特集 **いいたて移住の現在地**

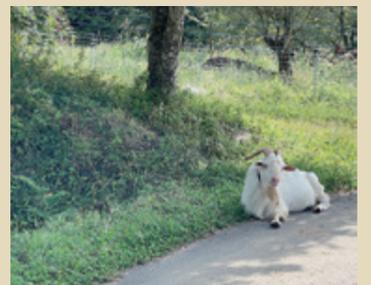


the most beautiful  
villages  
in japan

飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

[www.vill.iitate.fukushima.jp](http://www.vill.iitate.fukushima.jp)

- 2 話題「農地を舞台に」
- 4 特集「いいたて移住の現在地」
- 8 特集「飯館村×大学生」
- 12 報告「令和3年度決算報告」
- 15 報告「村職員給与公表」
- 16 飯館百景「初秋の農地で」
- 18 報告「9月議会定例会」
- 20 学びの広場「学力検査」
- 21 生涯学習のページ「絵本ライブ」ほか
- 22 ほけんとふくし「百歳賀寿」ほか
- 24 いいたて便り
- 26 話題のパレット
- 27 村からのおしらせ
- 28 いいたてDIARY／までの食卓
- 29 はなれていても／ふれ愛館だより
- 30 ふるさと資源 発掘図鑑
- 31 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 32 ほっとNEWS／飯館言葉の達人



今月の表紙  
飯館移住の現状をお伝えする  
特集にご協力をいただいた  
長田卓也さんご家族。「長田整  
骨院」を併設する自宅の周り  
には農地が広がり、ヤギのハ  
ヤトとエゴマも  
のびのびと暮  
らしています。



農地を舞台に力を合わせてチャレンジは続く

農家の皆さんとの協働で、農業の力強い発展を目指します

次の一步を踏み出す  
各種事業を展開中!

平成29年に19行政区で避難指  
示が解除されて以来、村は、営農  
再開に取り組み村民の皆さんと  
共に、農地の再生に取り組んでき  
ました。また、除染により失われ  
た地力の回復、拡大した鳥獣被害  
への対策、基盤整備などの課題に  
地道に取り組みながら、次の段階  
を見据えた数々の事業を展開し  
ています。

例えば、「生きがい農業」から  
「なりわい農業」への発展を支援  
する『生きがい農業ステップアッ  
プ事業』、農業用ハウスを補強す  
る『農業用ハウス暴風雪被害対  
策事業』などを継続。新規では、  
農繁期の労働力確保を支援す  
る『「結」の農業支援事業』、園  
芸作物などの生産拡大を目指す  
『園芸作物等産地づくりモデル  
事業』などを進めています。

また、「あぶくまもち」の生産  
拡大、農産物のPR事業などに  
は、生産者や加工業者、さらに  
は料理上手な村民の皆さんに  
も協力をいただいています。

続々と  
出荷中!

いずれは6次化もできたらいいな

新規事業「作ってにぎわう新たな彩り野菜事業」で育てられた色鮮やかな野菜が道の駅「までい館」に出荷されています。写真は株式会社リファ代表取締役の菊野里絵さん(宮内)。「出荷前に野菜の色が変わって、育てる側も楽しいです」。

青田豊実さん(飯館村あぶくまもち生産組合代表/前田)のほ場。村産業振興課の職員も草取りなどを共に行い「あぶくまもち」の生産に取り組んできました。収穫後は今後の生産拡大に向け種籾を採取する他、特性を生かした加工品開発にも取り組みます。



今月の話題  
vol.29

いいたて風の子マルシェ

10月23日 午前10時～午後2時  
ふかや風の子広場 入場無料!

自慢の農産物や加工食品が並ぶマルシェ。「あぶくまもち」や村産野菜を料理研究家がオリジナルレシピで調理する「ライブキッチン」も開催します。



さまざまな世界情勢の影響を受け、原油価格、飼料価格等の高騰が続いており、畜産農家の負担が増えています。村は、農業者との懇談などを経て、9月議会定例会に飼料高騰・燃料高騰対策関係の予算を計上しました。事業の詳細が決まり次第お知らせします。



カスミソウやスターチスを栽培している佐藤和生さん・祐子さん夫婦(関根・松塚)。品質の向上や生産拡大を目的とする「園芸作物等産地づくりモデル事業」を活用しています。この事業は令和3年以前から村外への出荷を継続している経営体が対象です。



移住相談の窓口

開所時間は平日の午前9時から午後5時30分。土日祝日については事前予約をお願いします。  
☎ 090-8280-5464 メール ▶ iju@iitatelife.jp

## いいたて移住サポートセンター

7月にオープンした「いいたて移住サポートセンター」では、移住関連の情報を集め、常駐するスタッフが、移住希望者の相談に応じています。

センターは、村役場に隣接する環境共生型住宅「まていな家」の中にあります。室内は木の温もりにあふれた温かな雰囲気、スタッフの皆さんが季節の花や木の実をさりげなく飾り、お客様を迎えていました。

開所から8月末までに移住関連の相談が37件ありました。センターを新たな拠点に、すでに定住されている方や地域おこし協力隊とも連携し、「いいたて移住」がよりよいものになるよう取り組みを進めます。



移住希望者の相談を受け付けます。対話を通して一人ひとりのニーズをくみ取り、情報提供を行います。

## 19行政区の避難指示解除から5年半

コロナ禍の影響で地方移住が進んでいる?

### 飯舘村ではどんな感じ?

# いいたて移住の現在地を見てみよう

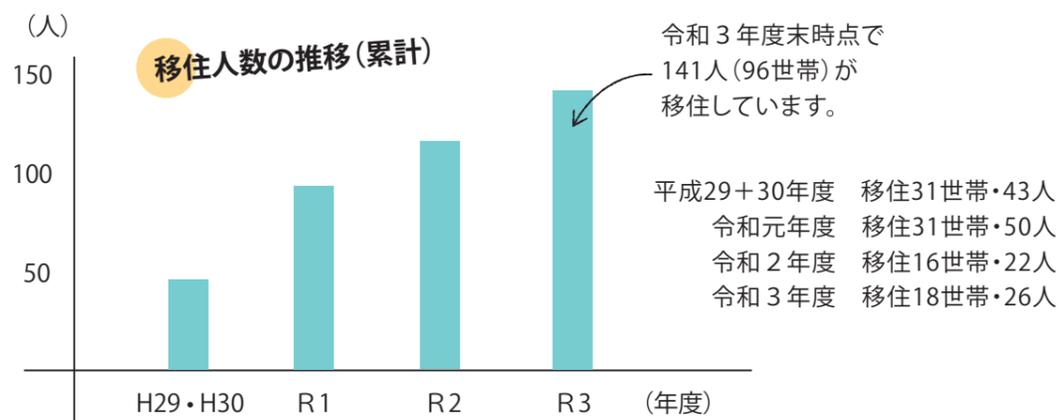
「移住」とは、定住を目的に、他の土地に移り住むこと。

震災やコロナ禍が、生き方や暮らし方を見つめ直すきっかけとなり、幅広い世代の地方移住が、全国で進んでいます。また、こうした流れの中で、人口減少や高齢化を課題とする過疎地域では、新たな住民を呼び込もうとさまざまな移住促進施策を展開しています。

飯舘村でも、移住に活用できる補助制度を設け、今年7月には「いいたて移住サポートセンター」を開設するなど、移住促進の施策を進めています。平成29年3月末の避難指示解除以来、昨年度までに、約100世帯の移住がありました。

飯舘村を選んでくださった皆さん。ありがとうございます。移住という大きなチャレンジですから、想像と現実には少なからずギャップもあるでしょうし、うまくいくことばかりではなかったはず。けれども今、そんな皆さんの一步一步の取り組みが、少しずつ実を結び、村に彩りをもたらしてくれています。

「いいたて移住」の現状を、ちょっとのぞいてみましょう。



### 住宅の確保が急務です!

移住希望の方に対して、現在紹介できる住宅が不足している状態です。センターでは、「空き地・空き家を、売りたい、貸したい」方の物件調査や、「飯舘村空き地空き家バンク」登録のサポートを行っています。ご検討中の方は、ぜひご連絡ください。

同封のチラシもご覧ください。

### 村民の皆さんの協力のもと

## 移住検討者向けツアー「ミチシル旅」



「村民の森あいの沢」の民家園にて。管理人さんの手ほどきで木工細工を体験しつつ、参加者同志も交流。

新たなツアーを実施中!

移住を検討している方に飯舘村の魅力を知っていただくツアーを開催しています。今年度は、テーマの異なる全3回のツアーを開催する予定。写真は9月に開催されたツアー第2弾のひとつです。



「いいたて結い農園」を訪問。まていに育てるエゴマやホーリーバジルの魅力に触れていただきました。

### Iターン・Uターン

Iターンは67世帯 Uターンは17世帯  
I(あい)ターン=新しい土地への移住  
U(ゆー)ターン=地元など過去の居住地への移住

### 世帯別の移住元

- 福島県内 40世帯
- 宮城県 8世帯
- 東京都 7世帯
- 千葉県 5世帯
- 埼玉県 5世帯
- 神奈川県 3世帯
- 茨城県 3世帯
- 大阪府 2世帯
- 鹿児島県 2世帯
- 青森県※以下各1世帯
- 岩手県
- 新潟県
- 静岡県
- 鳥取県
- 和歌山県
- 兵庫県
- 福岡県
- アメリカ合衆国

### いいたて移住を数字で見ると

19行政区の避難指示解除からの5年間に飯舘村へ移住したのは96世帯141人でした。そのうち都合により12世帯13人が転出しており、実質的には、令和4年3月末時点の集計で、84世帯128人が飯舘村に定住しているということとなります。

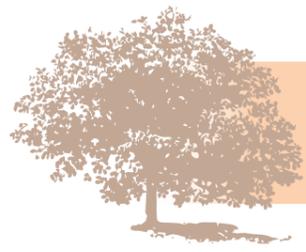
移住前の居住地は、県内が最も多く84世帯中40世帯が県内からの移住です。市町村別では福島市からが最多で18世帯となっています。

今年の1月から福島農林合同会社に勤務しています。「忙しさはありつつも、やりがいを感じます」。



### 福安恵巨さん(上飯樋)

仙台から移住をして5年目の福安さん。小学校入学のタイミングだった一人娘の夢七(ゆな)さんも5年生になりました。「移住をしたことで夢七は友達と離れる苦労があったと思うのですが、今はこのクラスでよかった、楽しいと話してくれます」。この秋にはセンター地区に引っ越し予定。借りていた住宅が地震の被害にあい困っていたところ、親身になってくれた知り合いの紹介で引っ越し先が見つかったそう。「村にも皆さんにもよくしていただいて感謝しています」。新たな一歩を楽しみながら、暮らしを紡ぐ福安さんです。



# 飯舘で育くむ移住ライフ

## 移住した皆さんに「現在地」を聞きました

白衣の卓也さんと妻の早(さき)さん、前列は3人の子どもたち。右から緑(りよく)さん、燕さん、雫さん。



### 長田卓也さん(小宮)

自宅に併設の整骨院には、多くの村民が通っています。院長で柔道整復師の長田さんは、国体にも出場したバレーボール選手で、後輩家族も飯舘村に移住してきています。今年は野菜の栽培・出荷にも挑戦。農業は未経験でしたが、分からないことは地元の方に聞きに行く行動力でカバー。「好調だったインゲンを来年は増やしてみよう」と考えています。妻の早さんは「皆さんによくしてもらって」と村の暮らしを楽しんでいる様子。「3人の子どもと一緒に通園・通学できて仕事がしやすいですし、家族の時間も増えました」。

### 伊集院博さん(草野)

「5月にもヒョウが降り、11月からは霜が降る。まだ一つひとつが勉強だよ」。沖永良部島(鹿児島県)から移住して4年目。伊集院さんは、花きとサツマイモの栽培に取り組んでいます。妻の直子さんが守る島の畑もあり、夫婦で行き来をしながら、全く気候の異なる2地域での農業に挑戦しているのです。草野赤坂に一軒家を、畑の近くには調整用の作業小屋を借りています。繁忙期の人手の確保など悩みは尽きませんが、今日もご夫婦は笑顔です。「失敗あるのは仕方ないこと。失敗も勉強よ。乗り越えて前進あるのみ」。



ソリダコの畑で。2地域で農業を営む上で妻の直子さんの協力は欠かせません。

### 小原健太さん(上飯樋)

この夏、3棟のハウスで育てたトルコギキョウを初めて出荷した小原さん。サラリーマンからの転身で農業はゼロからのスタート。建てたばかりのハウスが暴風被害にあうなど困難も経験しましたが、先輩方のアドバイスにも助けられ、出荷も無事に終えることができました。

移住から2年が経ち、7月には納屋付きの借家に転居。妻の貴子さんは企業等で働きながら小原さんの挑戦を応援しています。「まだまだ不安だらけ」と笑う小原さんですが、多くの人とつながりながら、村の環境を生かせる花きビジネスも構想しています。



品種もさまざまなトルコギキョウを栽培しました。ハウスと作業小屋を増築し来年は5棟で栽培する予定。

## 開講中!「わくわく農業体験塾」 みんな一緒に畑で学ぼう



教えられたり教えたり。畑での交流はいかがですか。

## 移住をした人もそうでない人も

野菜づくりを村の名人に学ぶ「わくわく農業体験塾」を開いています。年度の初めに育ててみたい野菜について話し合い、村内のほ場に苗を植えて、栽培や収穫を行っています。移住してきた人もそうでない人も、土の感触を味わいながら交流を深め、昨年は農作業を終えた冬季に、みんなでコンニャクやキムチをつくりました。今年は凍み餅づくりに挑戦する予定です。参加してみたい方はぜひ、生涯学習課(☎0244420072)までお問い合わせください。

## 交流する村民の方にも聞きました

「小原さん(右上の記事)の奥さんとは勤務先で知り合っ、ハウスが壊れたと聞いたの」。野菜の苗を提供したのをきっかけに、佐藤家と小原家のお付き合いが始まったそう。一方、地域おこし協力隊の二瓶さんは「いいいて結い農園」で作業を共にし、遊びに来るようになりました。「漬物をね、おいしいおいしいって食べてくれるの」。協力隊の仲間を連れて来ることもあります。「移住して来てくれた皆さんを応援したいと思うし、私たちも楽しくやっていきますよ」。長田さん(上の記事)の整骨院にも、定期的に通っています。

## 縁あって遊びに来てもらうように 出会いを楽しんでいます



佐藤義明さん・ひろ子さん(大久保・外内)

村の方々のお知恵をお借りしながら、活気ある村づくりに貢献します！



文学部3年 鎌倉啓伍さん

「農業×地域おこしでむらの未来を変える」をテーマに活動する東京大学のサークル。飯館村では令和元年度から、蕎麦の栽培を通じた交流、「人」を伝える冊子の作成などを行ってきました。

### 東大むら塾 飯館班



村民を取材した「いいたてむらびとずかん」1・2に続き、今年度は「行政区」を取材中。



### 大阪大学 浜通り環境放射線研修



9月は第2班の35人が来村。採取した土壌や植物を試料として整え線量を測定。データを蓄積しています。

### 農林サークル福桃 飯館村班



東大むら塾と共同で行う花壇設置のプロジェクト。村民の協力を得ながら資材を調達し木枠も製作しました。

現在は指導学生として運営にも関わり4年間通っています。景色の変化に復興を実感します。



工学部4年 登尾悠平さん

風評もある中で環境放射線の影響を科学的に判断できる人材を育てることが、目的の一つ。研究者のつながりで、研修には学外の学生も参加しています。今年度は学内84人、他大学から29人、海外からも10人が参加。

村の方々のおかげで、いつも充実した活動ができています。ありがとうございます！



食農学類2年 石田未優さん

食農学類が開設された令和元年に一期生が立ち上げた福大初の農業系サークル。大学近くの畑で農作物を栽培している他、県内各地の農家を手伝う「援農活動」を行っています。飯館村での活動は、初期から継続しています。

学び、寄り添う、学生たちのエールをお伝えします

# 飯館村×大学生

9月に開催された「福島飯館学生サミット」の参加団体、さらには村をフィールドとする大学について、その一部を紹介します。



学生主催の交流会

学生サミットにて、団体を横断してグループに分かれ議論を行った後の共有の時間。飯館村でつながった学生の皆さんが、互いの声に耳を傾けます。それぞれの関わり方で、飯館村を見つめている学生の皆さんの想いが重なり合う場面でした。飯館村や活動する他の県内被災地とどのように出会ったのか、なぜそこで活動を続けているのか。真つ直ぐな言葉の一つひとつが私たちへのエールのようでもありました。

## 飯館村で、話そうー 福島飯館学生サミット

9月19日・20日に、「東大むら塾」主催の「福島飯館学生サミット」が、飯館村地域防災センターで開催されました。飯館村や県内各地で、被災地域・農村地域の学習・実践を行う大学生が集まり、それぞれの取り組みについて語り、課題を共有しようというもの。杉岡村長も招きにに応じて来場し、「皆さんの存在から元気をもらっています」と感謝を伝え、議論にも参加しました。参加団体は、「東大むら塾 飯館班」の他、「福島大学・農林サークル福桃」「大阪大学・浜通り環境放射線研修」「大阪大学・浜通り地区復興支援サークル はまでいず」「慶應義塾大学公認学生団体S.A.L.あじさいプロジェクト」などで、互いの活動を伝え合い、テーマを設けて議論を深めました。

車座での議論



「きっかけも関わり方もそれぞれですが、違うからこそ話を聞きたいし、理解をしたい」。議論の場は、静かな熱気に包まれ、学生の皆さんが自らと飯館村について語り合っていました。「生懸命な人がたくさんいて、面白い村だと思えます」「村の皆さんと話すのが復興のその先を見据えていると感じます」「初めは何か力になれたらと訪れたのですが、村づくりにかける人たちの情熱に驚きました。現地に来なければ分からなかったことです」「未だに福島＝復興＝原発のようなイメージがこびりついています。地域の人の力強さを伝えて、イメージを変えていきたい」。

## 他にも続々! 飯館村をフィールドに数多くの活動が展開されています

村をPRするイベントでは菜の花を用いた菜を配布。地域の力になれたらうれしいです。



食農学類3年 兼子喜史さん

飯館村フィールドでは、地域資源を活用したにぎわいづくりの活動を行っています。12人の学生が3つの班に分かれ、村民の協力を得ながら、SNSでの魅力発信、ジャガイモ「イータテベイク」を使った料理の試作、農地と周辺環境を守る活動などに取り組んでいます。オープンキャンパスでは、飯館村を紹介するイベントを開催。ポスター展示やリーフレットの配布などを行いました。

■農学実践型教育プログラムでは、学生が2年次後期から1年半をかけ、地域の食と農に関する課題に取り組みます。フィールドは県内7市町村にあり、メンバーは専門領域4コースを横断して編成。地域に根差した活動で、実践力を磨いています。

### 福島大学食農学類 農学実践型教育プログラム 飯館村フィールド



前田・八和木地区の未利用農地を活用し景観作物でもある赤ソバを播種。10月には赤い花が見頃を迎えます。

(ホームにて)職員さんと入居者さんの仲のよさを感じます。私も入居者さんとお話できてうれしかったです。



保健科学部2年 中田さくらさん

県立医大保健科学部作業療法学科の実習が、村内で続いています。「いいたてホーム」では、入居者との交流を含む臨床実習を、前後期合わせて12回行う予定です。また、7月には、2回の「レクリエーション実習」を「いちばん館」で実施。サポーターセンター「つながる」の利用者や各地域の皆さんがこれに協力し、学生との交流を大いに楽しんでいました。

■今年度から、県立医大・保健科学部作業療法学科の実習が、村内で実施されています。村は同大学と2月に包括連携協定を締結。村民の健康福祉に関する取り組みを進めながら、医療人材の育成に協力しています。

### 福島県立医科大学 保健科学部 作業療法学科



「いいたてホーム」での臨床実習。入居者と実際に触れ合い個々の状況に応じた関わり方などを学んでいます。

プラスのイメージに変えていくお手伝いができればイベントやツアーを企画しています。



農学部3年 野田悠友さん

開発に携わってきた「いいたてカレーパン」が村民の手に引き継がれ村内イベントで販売された今年5月、屋外で使える調理器具を携え、応援に駆けつけました。渡邊とみ子さん(前田・八和木)の畑では「いいたて雪つ娘」かぼちゃの播種やわき芽取りを手伝い、大学の地元で開催するイベントでも雪つ娘の魅力を発信します。また10月には、人と語らい食を楽しむスタディツアーを村内で開催します。

■平成29年、ゼミが拠点を置く神奈川県川崎市などで村の農産物を販売、アンケートを実施しました。翌30年からは「いいたてカレーパン開発プロジェクト」を展開。また、飯館村を伝えるイベントを開催し、交流を生み出しています。

### 明治大学 本所ゼミ



菅野宗夫さん(佐須)の農地に建つ「明大ハウス」。最先端のIT技術を用いたハウスで、実習・援農を行っています。

私たちが企画しているさまざまなイベントに、ぜひ皆さんで参加ください。



行政政策学類3年 今 勇人さん

10月から、「までいな家」で、定期的に「村民食堂」を開催します。村の方がつくる漬物がメインの「汁・菜膳」の他、学生・留学生の地元の伝統料理や、村外で飲食店を営む村民や移住者をシエフに迎えたランチも企画中です。さらに、新たな「ワークショップ」も開催予定です。エコバックや凍み餅づくり、エゴマドレッシングの試作、ブレイクダンスやスマホゲームの教室まで、プログラムも多彩です。

■3年にわたり村が発行した自分史集の聞き取りを担当。またNPO法人「もりの駅まごころ協議会」の「みまもり事業」では村民と協働して訪問活動を行いました。村産もち米を「出世」させる六次化イベントも企画・開催しています。

### 福島大学 大黒ゼミ



昨年12月に「までいな家」で開いた村民食堂のひとつ。10月からの定期開催に向け準備を進めています。

## 飯館村にこだわり 学びを深める

P9の大阪大学の他にも、飯館村をフィールドに、実習などを行う大学があります。

例えば福島県立医科大学は、今年度から、保健科学部作業療法学科の実習を「いいたてホーム」や「いちばん館」で行っています。同学科は、福島県の複合災害(地震・原発事故)の経験をこれからの医療現場に活かそうと、震災当時の村の状況も実習の中で学んでいます。

また、県内各地にフィールドを持つ福島大学食農学類の「農学実践型教育プログラム」では、飯館村フィールドの学生が、地域の課題をくみ取り、村民と関わりながら活動しています。

他にも、長期にわたって飯館村に通い、村民と共に幅広い活動を展開する大学のゼミや研究室が複数あり、多彩な発想でにぎわいを創出しています。イベントなどへの出展やスタッフとしての協力もあり、村民との交流の輪も広がっています。

## 寄り添い、共に歩む 「ふなやの担い手」

P8の「飯館福島学生サミット」では、学生の皆さんの議論から、活動の背景にある深い思索や地域への愛着、人々への敬愛などをうかがい知ることができました。探究心と行動力に満ちた姿勢は清々しく、被災地の複雑な状況を理解した上で、村民と共に歩もうとしています。学生の皆さんは、紛れもない『ふるさとの担い手』です。

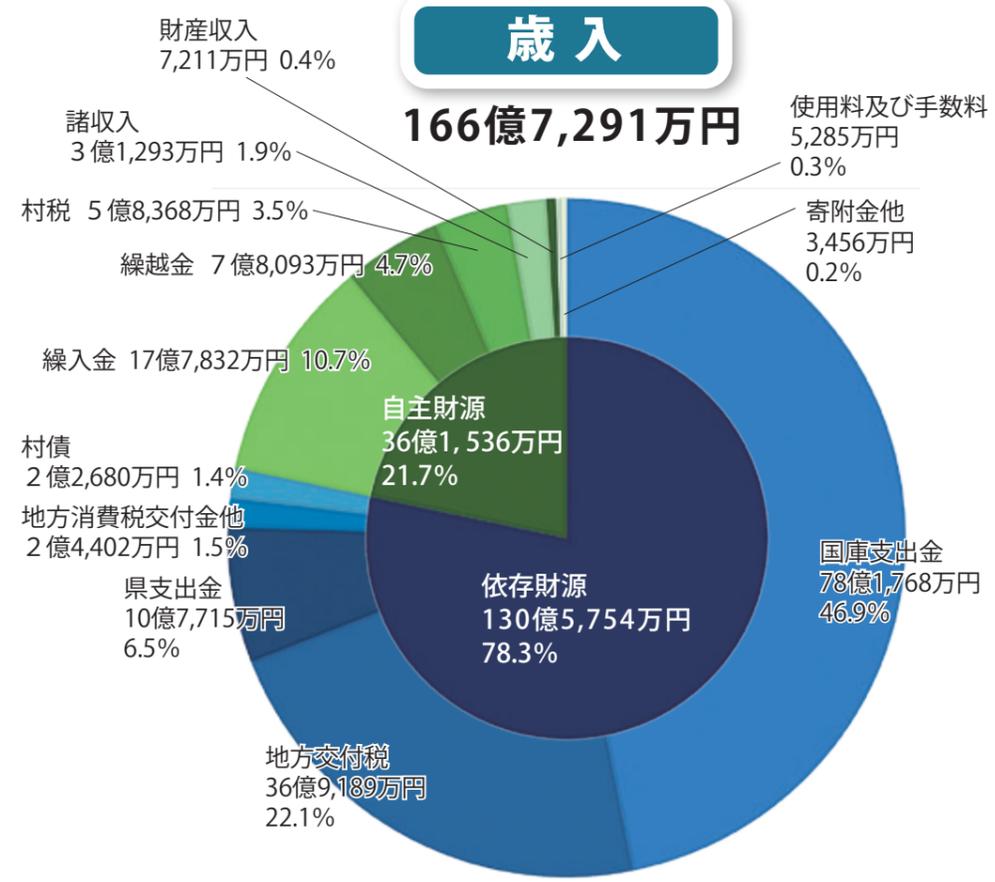
また、学生の眼差しがとらえた村の姿は、いきいきとエネルギー感で、村や村民を大いに勇気づけるものでした。それぞれの取り組みにも、これからの村づくりに関わる数々のヒントがあります。

村は今後とも、飯館村を学びのフィールドとする大学との連携を深め、積極的に関わる学生の皆さんの力もお借りしながら、『明日が待ち遠しくなるような、わくわくする楽しいふるさと』づくりを「一歩一歩進めていきます」。

# 令和3年度 飯館村 決算報告

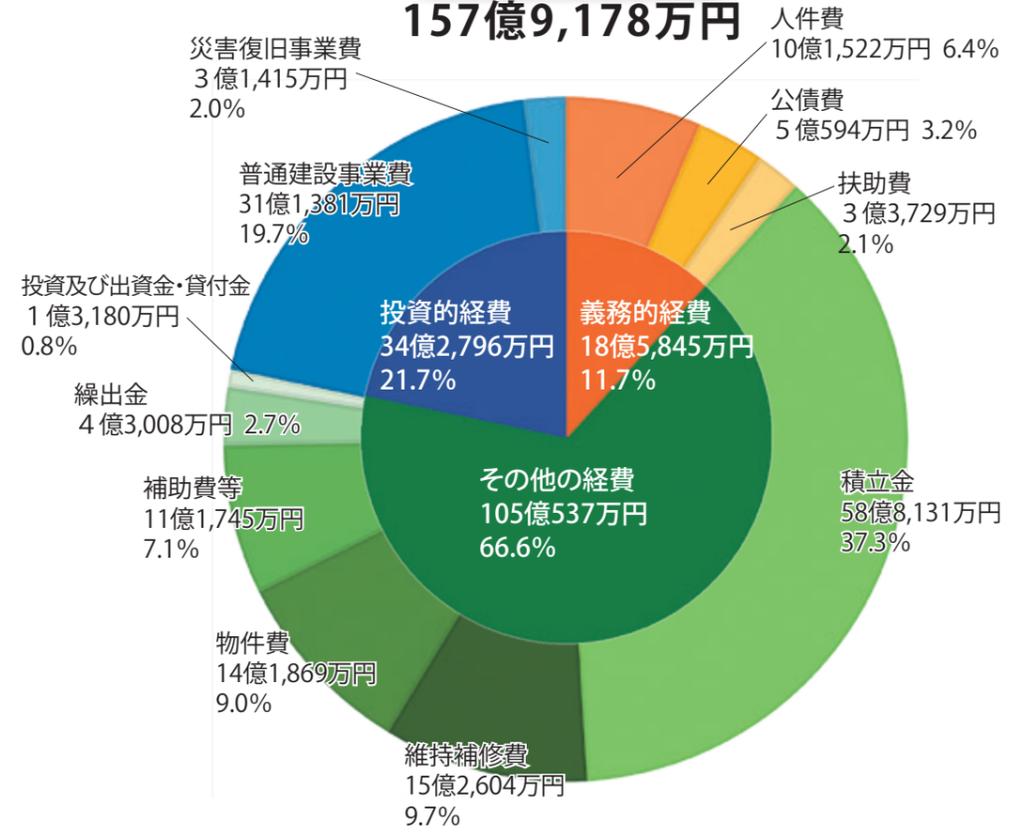
飯館村の令和3年度各会計決算がまとまり、9月定例議会で承認されました。一般会計における歳入決算額は166億7,291万円(前年度比5.9%減)、歳出決算額は157億9,178万円(同3.7%減)であり、いずれも過去4番目に大きい規模となりました。また、歳出決算額のうち11億4,289万円(全体比72.3%)が復旧・復興事業に要した費用となりました。昨年度の一般会計特別会計の概要や村政の動き等についてお知らせします。

## 歳入



※金額は端数処理をして万円単位にしています。

## 歳出



令和3年度に  
村民1人あたりに使われたお金  
(10円未満四捨五入)  
**320万3,200円**  
※一般会計目的別歳出決算額  
157億9,178万円  
人口4,930人(令和4年4月30日現在)

農林水産業費  
農業復興のために  
  
1人あたり  
**83万1,700円**

総務費  
村全般企画・管理に  
  
1人あたり  
**136万5,200円**

土木費  
道路や橋の整備に  
  
1人あたり  
**34万330円**

民生費  
福祉増進のために  
  
1人あたり  
**21万8,090円**

衛生費  
清掃・予防衛生に  
  
1人あたり  
**8万9,710円**

商工費  
企業立地支援などに  
  
1人あたり  
**4万2,240円**

教育費  
学校教育の充実に  
  
1人あたり  
**8万5,550円**

公債費  
借入金の返済に  
  
1人あたり  
**10万2,630円**

災害復旧費  
災害復旧に  
  
1人あたり  
**6万3,720円**

消防費  
消防・防災に  
  
1人あたり  
**5万610円**

※その他(議会費・労働費・諸支出金)…1人あたり1万3,420円

### 村各特別会計の決算状況 ※( )内は前年度比

●国民健康保険特別会計  
歳入 11億4,268万円 (2.8%減)  
歳出 10億 407万円 (9.2%減)

●介護保険特別会計  
歳入 10億2,559万円 (9.7%減)  
歳出 9億9,385万円 (5.4%減)

●簡易水道事業特別会計  
歳入 1億5,571万円 (65.6%減)  
歳出 1億5,541万円 (64.8%減)

●介護サービス事業  
歳入 522万円 (1.3%減)  
歳出 522万円 (1.3%減)

●農業集落排水事業特別会計  
歳入 1億6,584万円 (42.2%減)  
歳出 9,749万円 (51.5%減)

●後期高齢者医療特別会計  
歳入 3,175万円 (13.4%増)  
歳出 3,175万円 (14.3%増)

## 村役場職員の給与などをお知らせします

村の行政運営における公正性と透明性を高めるため、「地方公務員法」及び「人事行政の運営等の状況の公表に関する条例」に基づき、職員数等の人事に関する運営状況についてお知らせします。

### ●職員数の状況

(各年4月1日時点)

		職員数		対前年 増減数
		令和3年	令和4年	
普通 会計 部門	議会	2	2	
	総務	18	19	1
	税務	5	5	
	民生	8	7	△1
	衛生	5	4	△1
	労働	0	0	
	農林水産	9	9	
	商工	2	2	
	土木	5	6	1
	計	54	54	
教育部門	10	10		
小計	64	64		
公営企業等 会計部門	その他	8	8	
小計	8	8		
合計	72	72		

### ●職員の平均年齢、平均給料月額

(令和4年4月1日時点:一般行政職)

平均年齢	平均給料月額
41.7歳	32万1,900円

### ●職員の初任給の状況

(令和4年4月1日時点)

一般行政職	大学卒	19万3,100円
	高校卒	15万8,400円

### ●人件費の状況

(普通会計令和3年度決算)

住民基本台帳人口 (令和4年1月1日)	4,996人
歳出額 A	157億9,178万1千円
実質収支	7,708万9千円
人件費 B	10億1,521万8千円
人件費率B/A	6.4%

### ●特別職の報酬などの状況

(令和4年4月1日時点)

給料 (月額)	村長	80万5,000円	
	副村長	65万円	
	教育長	62万円	
報酬 (月額)	議長	30万円	
	副議長	25万1,000円	
	議員	23万5,000円	
期末 手当	村長	(令和4年度支給割合)	
	副村長		
	議長		6月期 1.60月分
	副議長		12月期 1.60月分
	議員		計 3.20月分



※職員数は、一般職(会計年度任用職員等を除く)に属する定員管理上の職員数です。

※詳細については10月下旬頃、村ホームページに掲載しますのでご覧ください。

## 新しい村に向かって ~令和3年度に実施した主な施策~

令和3年度一般会計決算額の中で、復旧・復興事業に要した歳出総額は114億2,289万円で歳出全体の約7割を占めました。令和3年度に村が行った主な施策について、紹介します。

### 農業基盤整備促進事業 14億2,351万円



### 村道舗装機能回復工事 12億3,919万円



### 木質バイオマス施設等緊急整備事業 1億1,983万円



### 新型コロナワクチン接種事業 4,307万円



## 飯館村の財政状況指数

令和3年度の決算を基に、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定による村の財政状況を公表します。令和3年度健全化判断比率等を算定した結果、4つの指標において早期健全化団体や財政再生団体となる基準を下回りました。このことから、本村の財政状況は健全な状態にあります。引き続き、適正な財政運営に努めます。

健全化判断比率	早期健全化基準 ※基準を下回るほど健全	飯館村の財政状況
一般会計での赤字の程度(実質赤字比率)	15%	0%(算定なし)
全会計での赤字の程度(連結実質赤字比率)	20%	0%(算定なし)
財源の中で借金返済額の占める割合 (実質公債費比率)	25%	6.4%
全会計を対象に、一般会計等が将来負担する借金の 財政規模に対する割合(将来負担比率)	350%	0%(算定なし)

前田地区の高台に広がる蕎麦畑。連なる山並みとすっかり秋めいた空をバックに白い花が揺れていました。



# 飯舘 百景

初秋の農地で



広がる水田に稲穂が揺れます。(前田・八和木)



WCSのロールがきれいに整列。(大久保・外内)  
※WCS=ホールクroppサイレージ



大きく育ったデントコーンの収穫。(飯舘町)

前田地区、明神岳の山麓に広がる段々の蕎麦畑も、美しい景色を見せていました。上下の段差が大きいので、地上から二度に眺めることはできませんが、畑と畑の間の道路を進んで行くと、次々に白い花畑が現れます。清々しい景色に見とれる一方で、新蕎麦の季節が待ち遠しくなりますね。

WCS(ホールクroppサイレージ/稲発酵粗飼料)のロールも、さらに多くの地区で見かけるようになりました。ロールの積み方もさまざまあって、ちょっと不思議な景色が楽しめます。

また、さまざまな用途のある「デントコーン」の収穫風景にも出会いました。背の高い作物ですが、大型機械であつという間に刈り取られていきました。そして村内は稲刈りの季節へ。実りの秋が深まっています。

一段と農地の活用が進んでいることは、風景からもうかがえます。昨年までは休んでいた農地にも稲の穂が揺れ、広々とした水田の風景に、「ようやくここまでできたか」と元気をもらった人も多かったのではないのでしょうか。

猛暑が続いた後に、すっと涼しくなると、秋の気配が感じられるようになりました。

稲の穂が実り始めた頃、あちらこちらで蕎麦の花も咲き始めました。



令和4年9月議会定例会は、9月13日から29日までの日程で開かれました。一般質問は15日に行われ、村議員が村政の重要な課題等について村側の考えを質しました。  
議会審議は29日に行われ、提出された議案は全て原案どおり可決されました。

今議会で可決された議案など

令和4年度  
一般会計補正予算

令和4年度簡易水道事業  
特別会計補正予算

令和4年度農業集落排水事業  
特別会計補正予算

令和4年度  
介護保険特別会計補正予算

令和3年度  
一般会計及び各特別会計  
歳入歳出決算認定について

職員の育児休業等に関する  
条例の一部を改正する条例

飯館村教育委員会委員の  
任命につき同意を求めること  
について

### 村長村政報告

紙面の都合上一部省略しています

#### 帰還困難区域について

8月23日、内閣府原子力災害現地対策本部の師田副本部長と飯館村特定復興再生拠点区域における「ふるさとへの帰還に向けた準備のための宿泊」いわゆる「準備宿泊」についての協議を行い、9月23日から避難指示解除の日まで、準備宿泊を実施することとしました。

また、長泥地区住民の方々に「準備宿泊のしおり」などを郵送しています。

今後、長泥地区での準備宿泊にかかる受け付けや個人積算線量計の貸与を進めるほか、引き続き、避難指示解除に向けた整備や協議を進め、その先にある「夢のあるふるさと長泥」の実現に向けて取り組んでいきます。

#### 住民懇談会

9月3日、4日、10日、計5回にわたり住民懇談会を開催し、延べ約100人の方にご参加い

ただきました。今回の住民懇談会は、村民からの声を聴くことに重きをおいて実施しました。今後も、村民の声をお聴きする機会として、開催してまいります。

#### 移住サポートセンター

移住・定住関係の取り組みとして、7月22日から、役場本庁舎に隣接する「まていな家」に、「いいたて移住サポートセンター」をオープンしました。

本センターは、民間事業者のノウハウを生かし、さらなる移住・定住を推進するため、交流や移住を希望される方の最初の窓口として設置したもので、福島再生加速化交付金を財源とした取り組みです。

すでに、8月末までに37件の移住関連の相談がありました。今後、交流・移住・定住施策が、この「いいたて移住サポートセンター」を入口として、すでに定住されている方や地域おこし協力隊とも連携した展開となるよう、定期的な打ち合わせを重ねています。

#### はやま湖花火大会

7月30日、大倉地区のはやま湖（真野ダム）で、『はやま湖花火大会』が、真野ダム周辺開発協議会との共催、福島県の後援により、3年ぶりに開催されました。

当日は約600人の方々にご来場いただき、全国的にも珍しい水中花火に、多くの方から「とても感動した」「夏休みのいい思い出になった」などのお声をいただきました。

#### 宿泊体験館きこり

令和4年3月の地震により営業ができない状況となっていた宿泊体験館「きこり」は、入浴施設の営業を7月20日から再開し、利用者の方々に喜んでいただいているところです。なお、宿泊棟の修繕工事に向けて準備を進めており、10月1日から令和5年3月末まで、コテージを除く全館を休館することとしています。

村民の憩いの場、交流の場として多くの方にご利用いただいている重要な施設ですので、早期に再開できるよう努めます。

#### 村民の森あいの沢

令和4年4月からオートキャンプ場のモニター利用を開始し、8月末までに1068人の利用がありました。夏休み期間には多くの家族連れで賑わっており、利用者の中にはSNSで感想や魅力を発信されている方もおり、今後も「きこり」「あいの沢」共に、村の観光・交流の拠点として、より利用しやすく愛着のわく施設となるよう、村内外にPRをし、交流人口の拡大を図っていきます。

#### 村民の帰還状況

9月1日現在の村への帰還者は641世帯、12338人で帰還率は約25.3%。これに、震災後の転入者215人といたってホームの入所者等を含め、村内の居住者は789世帯で15077人です。

避難を継続している方は、県外避難者が165人。県内避難者は、福島市に2130人、南相馬市に296人、伊達市に264人、川俣町に247人、相馬市に128人など、合わせて3227人です。

#### 新型コロナウイルス接種

新型コロナウイルスの4回目接種は、「いちばん館」で4日間実施し、接種人数は1265人です。避難先自治体での接種を合わせて、9月1日現在の3回目接種人数は3737人、4回目接種人数は1961人です。

#### 集団健診

7月14日から21日まで、16歳以上の全村民を対象に「いちばん館」で実施し、受診者は、令和3年度より15名増の956人でした。検診の結果、指導が必要な方には保健指導を実施し、未受診の方には、個別に案内を送付するなど受診率向上を図るとともに、村民の健康管理に努めます。

#### 農業者との懇談会

7月11日、畜産農家及び牧草などの粗飼料生産経営体を対象に、懇談会を実施しました。会には農業委員会をはじめ関係機関にも出席いただき、参加者一人ひとりから現状や課題、村への要望等について聞き、意見交換や情報提供を行いました。ここで

伺った内容を踏まえて、今議会に飼料高騰・燃料高騰対策関係の予算を計上しています。

#### 建設関係

村道機能回復工事（舗装工事）は、現在30路線、約10.7kmの工事を発注しており、令和4年12月末の工事完了を見込んでいます。

また、村管理の普通河川、17河川においても除草作業を進めており、9月末に完了する予定です。

農業基盤整備促進事業は、14の行政区で工事を進めています。今後、大倉行政区と飯樋町行政区の工事を発注し、早期完了を目指します。ため池の放射性物質対策工事は、令和4年度に8か所のため池が完了する予定です。

#### 教育委員会関係

7月、飯館村地域防災センターを拠点に、4、6年生対象の「わくわくどきどき合宿通学」を実施。8月には、5、6年生を対象に北海道での「いきいきわくわく学びの旅」、7、9年生を対象にオンラインで「希望の語学研修「希望の里WAKUWAKU Eツアー」を実施しました。

## 植物と触れ合う癒しの時間 多肉植物寄せ植え教室

9月1日に交流センター「ふれ愛館」で開いた生涯学習事業『多肉植物寄せ植え教室』。樹木医の鈴木俊行先生を講師に迎え、約20人が受講しました。使用土の特徴や植物の配置などについては、鈴木先生が実演を交えて楽しく解説。参加者は、グリーンネックレスやシレイデンなど9種類の植物を、大きさや高さを見ながら配置。おしゃれなブリキの鉢に丁寧に植え込み、「寄せ植え」づくりの楽しさを味わっていました。



巧みな話術で、栽培のコツまで楽しく教えてくださる鈴木先生(中央奥)。リピーターの多い人気講座です。

## 親子で楽しい時間を 絵本ライブinスポーツ公園

9月17日、「いいたてスポーツ公園」屋内テニスコートで、『絵本ライブ』を開催しました。講師は、「にじのかなた(マキ&サユリ&ヨシユキ)」。演奏、歌、読み聞かせを組み合わせた新しい形のライブです。ライブ中には、子どもたちと保護者が触れ合うような微笑ましい場面も多く見られました。この日はアンコール2曲を含む計9曲のプログラムが行われました。参加者からは、「演奏付きの読み聞かせは初めてでとても楽しかった。」と、好評の声が聞かれました。



参加した子どもたちは、音楽に合わせて歌ったり踊ったり、ノリノリで楽しむ様子が見られました。

## 市町村対抗軟式野球大会 白河市チームとの初戦で善戦

第16回市町村対抗福島県軟式野球大会1回戦に飯舘村チームが登場。9月17日、信夫ヶ丘球場(福島市)で、白河市チームと対戦しました。飯舘村チームは1回裏に得点をあげ、終盤に向けて調子を上げていきましたが、序盤の失点が響き10対1で敗れました。

選手の皆さん、村チームとしての熱いプレーをありがとうございました!



試合中も声をかけ合いチームワークのよさを見せつけた村チーム。今後ますますの活躍を期待しています!



## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果から

令和4年4月に全国学力・学習状況調査が行われました。この調査の目的は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、今後の教育活動に役立てていくことです。毎年実施している2教科(国語と算数・数学)の試験及び質問紙調査(学習・生活状況に関する質問)に加え、今年度は4年ぶりに理科の試験も実施しました。飯舘村教育委員会では、調査結果から子どもたちの良さや課題を把握し、継続的な検証改善サイクルを確立しながら確かな学力を育むことを目指しています。

### 福島県の傾向

- 中学校国語がおおむね全国平均となっている。一方で小学校算数と中学校数学は全国平均を下回っている。
- 質問紙調査から「主体的な学び」「対話的な学び」の視点による授業改善が進んでいる。一方、これまでの学習を振り返り、自分の考えをうまく伝えようと工夫するなど、自らの学習を調整しようとする態度の育成に課題がある。

### 飯舘村の結果から

■ 村の結果も概ね福島県の傾向と同様である。しかし小学校国語と算数や中学校理科など、全国や県の平均を上回っている教科もある。

#### 1 各教科について

学年	教科	良くできているところ	課題となっているところ
6年生	国語	物語を読み、登場人物の行動や気持ちなどをとらえる。	漢字を文の中で正しく使う。
	算数	問題の表の意味を理解し、全体と部分の関係から答えを求める。	グラフから必要な情報を読み取る。
	理科	身の回りの観察から自然の事象を理解する。	観察で得た結果を、分析・解釈しながら自分の考えをもつ。

学年	教科	良くできているところ	課題となっているところ
9年生(中学3年生)	国語	文章に即して漢字を正しく書く。	小説の場面の展開や登場人物の心情の変化などをとらえる。
	数学	事柄を説明するために、式を変形する。	図から分布の特徴を読み取る。
	理科	化石から過去の大地の変動を考察する。	物体に働く力について説明する。

#### 2 各教科の結果と質問紙調査との関連を分析して、正答率の高い傾向にある児童生徒

生活に関わること	学習に関わること
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。</li> <li>◎ 将来の夢や目標をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 課題で分からないことがあったときにそのままにせず、周囲に聞くなどの努力をする。</li> <li>◎ 公式やきをまりを学習するとき、その理由も考える。</li> </ul>

### 学力向上に向けた今後の取り組み

- 少人数教育のよさをいかした、個に応じた指導が成果として表れており、今後も継続します。
- 昨年度より進めているICT機器を利用した学習が協働的な学びにつながり、思考力・判断力・表現力の向上に役立っています。引き続き活用していきます。
- 知識や技能を身につけるために、繰り返しの学習など基礎基本の定着を目指した指導を行います。



### ご家庭では

- 毎日の生活リズム(起床、就寝、食事の時間)を守らせましょう。
- ゲームやスマートフォンの使い方を親子で決めましょう。
- 家庭学習を習慣化させるために、下校後の計画を立てさせましょう。

健診を  
受けましょう!

〈実施時期〉

● 医療機関での健診について ●

地 区	各種健診 (子宮・乳がん検診以外)	子宮がん検診	乳がん検診
福島市内	終了	終了※	7月1日～12月28日
相双方部	7月1日～12月28日	9月1日～12月28日	9月1日～12月28日
伊達方部	8月1日～12月28日	8月1日～12月28日	8月1日～12月28日

※子宮がん検診、乳がん検診は令和5年1月17日に村での集団接種を予定しています。詳細は今後お知らせ版にてお知らせいたします。

■ 受診方法 「総合健康診査のお知らせ」(6月に郵送)の医療機関一覧から希望する医療機関を選び、ご自身で希望の医療機関に電話で予約を取ってください。\*健診料金の自己負担はありません。

■ 受診に必要なもの ① 施設検診受診シール(6月に郵送:青色の用紙) ② 保険証  
案内をなくされた方、予約の方法が分からない方などお気軽にご相談ください。

問 健康福祉課健康係 ☎0244-42-1637



本田徹先生/医師として国内外の医療現場で活躍。阪神・淡路大震災、東日本大震災の被災地でも最前線で医療に携わりました。現在は飯舘村在住で「いいたてクリニック」の診療(火曜日)と訪問診療を行っています。

本田先生に聴く

うた  
こころとからだといのちの詩

いいたてクリニック 本田 徹 先生

第2回 健康診査(健診)のすすめ

戦後日本で始まった住民健診は、長野県の佐久総合病院が、八千穂村と協力して昭和34年(1961年)に始めた、全村民健診活動に起源があります。世界でも先駆的な皆保険制度が同じ年に始まりましたが、現金収入がコメの収穫のときくらいしかなかった農民には、窓口での診察料の一部支払いは大きな負担となり、役場にムシロ旗で抗議に押し掛けるといったことも、信州では起きました。そもそも住民が手遅れになるまで、病気を放置せざるを得なかったため、手遅れになって高額な医療費を支払わされる状況をなんとか改善しなければと、佐久病院の若月俊一院長は深刻に受けとめたのでした。こうして全村民を対象に、年1回個人負担なく始めた健診で、驚くべきことに、潜在疾病や手遅れ病(胃がん

など)の発見が進み、医療費自体が十年のうちに、八千穂村では全国と比べても、長野県内の他の自治体に比べても減っていく、目覚ましい成果を生みます。当時の厚生省がこの結果に注目し、全国の職場や地域での健診の実施を政策化していきました。  
みなさんにお願したいのは、年1回の無料の健診を受けること、そして、受けるだけで安心せず、結果に関して知り、個別相談を受けていただくことです。共通の健診項目のほかに、年齢や性別により、がんや肝炎ウイルス感染などに関する健診項目もあります。詳しいことは、村の健康福祉課にお問い合わせください。事後の指導についても、役場の保健師や栄養士が丁寧に説明してくれます。いいたてクリニックでも相談に応じることができま



とっても  
お元気!



お祝いに駆け付けた皆さんに、自ら謝辞を述べる今野さん。



ご自宅で行われた賀寿のお祝い。関係者や親族との記念撮影。

今野義實さん  
百歳賀寿をお祝いしました

8月25日、今野義實さん(前田・八和木)が百歳の誕生日を迎えられ、村や県、村社会福祉協議会、村老人クラブなどから賀寿の褒状や記念品が贈られました。今野さんは、百歳とは思えぬしっかりとした足取りで式に臨み、自らの足で起立し、褒状や記念品を受け取りました。

大正11年生まれの今野さん。戦争を経験し、困難な状況を乗り越え、「兵隊として鍛えた身体があったからこそ、今もこうして健康でいられる」と話します。

村で百歳を迎えた方は、今野さんで41人目となりました。

敬老祝い品をお贈りしました

9月11日に開催を予定していた令和4年飯舘村敬老会ですが、新型コロナウイルス感染症の拡大期に発出される「福島県感染拡大警報強化版(BA.5対策強化宣言)」の期間延長に伴い中止となりました。開催の準備を続けていた中、ご参加いただく皆さんの安全を第一に考えた上での決定でした。

ご長寿のお祝いと感謝をお伝えするため、村長からの手紙を添えて、75歳以上の方に、敬老祝い品をお送りしました。今回お会いすることは叶いませんでしたが、来年の敬老会での再会を楽しみに、どうぞお元気でお過ごしください。



対象者名簿を掲載した敬老会の冊子、玉ねぎスープの素、和三盆の干菓子にお手紙を添えて郵送しました。



9月12日にいちばん館にて封入作業。健康福祉課の職員が、お祝いの気持ちと感謝を込めて、丁寧に作業を進めました。

利用をご希望の方は事前に電話☎024-594-1111  
(平日の午前10時から午後5時)で申し込みを。



役場前の出発式で協定書を手にする株式会社いちいの伊藤信弘社長(左)と高橋副村長。

## 株式会社いちいと協定締結 移動スーパー『とくし丸』発進

9月12日、スーパーマーケット「いちい」の移動スーパー「とくし丸」が村内での訪問販売をスタートしました。「とくし丸」は、生鮮食品、惣菜から日用品まで、約400品目・1,200点の商品を積んで、利用希望の家庭を訪問します。初日は事前に申し込みのあった約30軒を巡回しました。また同日、村は、株式会社いちいと「地域見守りの取組みに関する協定」を締結しました。「とくし丸」の訪問販売を通して地域の見守りに協力をいただき、コミュニティの情報を行政サービスに生かしていきます。

※Fintech(フィンテック)とは…金融サービスと情報技術を組み合わせた革新的な動き



東京都大手町の会場で協定書を手にするナッジ株式会社の沖田貴史代表取締役社長(左)と杉岡村長。

## クレジットカードで 飯館村を応援!

詳しくは



フィンテック

9月12日、『飯館村とナッジ株式会社とのFintechを通じた地方創生の推進に関する協定締結式』が行われました。また、この協定を元に、「普段使いで“好き”を応援できる」NudgeのVISAクレジットカードで、利用者が飯館村を応援できるようになりました。利用額の一部が村への寄附となり、一定額を達成すると、素敵な特典がもらえる仕組みです。

自治体としては東日本で初めて、全国でも3例目となりました。「遠くにいても村を応援したい」そんな方たちの思いを、大切に活用させていただきます。



浴衣姿で楽しむいいたてっ子の姿が多く見られました。素敵な思い出ができましたね。

## 秋の思い出またひとつ いいたてっ子秋祭り

9月18日、「いいたて希望の里学園」で、『いいたてっ子秋祭り』が行われました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により延期となっていたが、1家族あたりの参加人数を制限し、感染対策を万全に行った上で開催されました。この日は約220人が参加しました。

スーパーボールすくい、水ヨーヨーつり、千本つり、ボウリングサッカー、水ピストル射的、大ビンゴ大会の計6種類の催しが準備され、会場には親子の笑顔があふれていました。

## 相馬地方の保護司の皆さんが 交流センターで研修会

8月25日、交流センター「ふれ愛館」で、『相馬地方保護司研修会』が開かれました。「保護司」は、法務大臣から委嘱を受けた非常勤の国家公務員ですが、給与は支給されません。保護司法、更生保護法に基づき、犯罪や非行に陥った人の立ち直りや社会復帰を支えます。

研修会では、約40人の参加者が、「被害者等の心情を踏まえた保護観察処遇について」と題した講義を受け、「犯罪被害者等基本法」に照らして保護観察処遇の事例検討などを行いました。



犯罪や非行に陥った人の更生を助けるという難しい任務に、誠実な取り組みが続いています。

## 試作の加工場として再オープン 『もりの駅まごころ』

8月26日、「もりの駅まごころ」が、農産物の加工場として11年ぶりに運用を再開しました。利用者が試作を行う中で必要な機材を追加していくため、当面の利用は無料です。

再開にあたり、施設を運営するNPO法人「もりの駅まごころ運営協議会」の鮎川邦夫会長(小宮)が、「協議会を解散せず再開を目指してきました。ぜひ有効活用してほしい」とあいさつ。杉岡村長が「アイデアを生かして、わくわくする産品、活動、交流を生み出してほしい」と祝辞を述べました。



利用希望者と関係者に向けあいさつする鮎川会長(右端)。施設の内覧と説明会も行われました。

## 県内各地の物産が大集合 『ふくしまフェスタ』に出展

9月3日・4日に「恵比寿ガーデンプレイス」(東京都渋谷区)で開催された「ふくしまフェスタ」に出展しました。この催しは、県の主催。特産品の販売やパネル展示などを通して、福島県の魅力を広く発信するもので、飯館村のブースは1日目に登場しました。

ブースの店頭には、「いいたて雪っ娘」かぼちゃ、ナツハゼ、黒毛和牛の牛肉などを加工した飯館ならではの商品が並びました。また、これらの商品を開発した生産者や事業者の努力、創意工夫の素晴らしさを伝え、前進する村の姿を発信しました。



各市町村のブースが並んだ屋外の広場。自慢の物産を通して来場者に村の魅力伝えました。

## 特定復興再生拠点区域の避難指示解除に向けて 長泥地区で「準備宿泊」が始まりました

長泥地区の特定復興再生拠点区域で、9月23日から準備宿泊が始まり、9月29日時点で2件の申し込みがありました。

村では、長泥地区の再生と発展を見据え、必要な取り組みや事業を、一つひとつ適切に進めていきます。今後は、準備宿泊を行った住民の方から、宿泊時に気になった点等についてお話を伺い、区域の避難指示解除に向けた取り組みに生かしていきたいと考えています。



今年度末の完成に向けて建設が進む「居住促進ゾーン 長泥地区集会施設」

準備宿泊をする方は、事前の登録をお願いします。

〈事前登録受付先〉

村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613

※平日の午前8時30分から午後5時15分

## 9月の村の動きと主なできごと

- 1日・あぶくまもち雑草除去作業(前田地区)
- ・生涯学習講座「多肉植物寄せ植え教室」(交流センター「ふれ愛館」)
- 3日・市町村対抗軟式野球及びソフトボール大会合同結団式(交流センター「ふれ愛館」)
- ・「ふくしまフェスタ」出展(東京都渋谷区・恵比寿ガーデンプレイス)
- ・関沢地区農地中間管理事業説明会(関沢ふれあいハウス)
- 3・4・10日・住民懇談会(アケティおろしまち・交流センター「ふれ愛館」・かしま交流センター)
- 4日・飯館村野球連盟理事長杯(いいたて球場)
- 5日・新型コロナウイルス感染症対策本部会議(村役場)
- 11日・飯館村敬老会(中止)
- ・飯館村消防団実動訓練(交流センター「ふれ愛館」駐車場)
- 12日・株式会社いちいと「地域見守りの取組みに関する協定」を締結(村役場)
- ・ナツジ株式会社と「クレジットカード協定」を締結(東京都千代田区)
- 13・29日・9月議会定例会(議場)
- 15日・第2回文化財保護審議会(交流センター「ふれ愛館」)
- 17日・第16回市町村対抗福島県軟式野球大会1回戦 対白河市(福島市・信夫ヶ丘球場)
- ・絵本ライブ in いいたてスポーツ公園(いいたてスポーツ公園・屋内コート)
- 18日・いいたてつ子秋祭り(いいたて希望の里学園)
- ・農業基盤整備事業比曾行政区説明会(比曾集会所)
- 20日・農業委員会定例会(村役場)
- 21日・いいたて村文化祭実行委員会(交流センター「ふれ愛館」)
- 22日・長泥地区将来構想検討委員会(村役場)
- 24日・カヌー教室(北塩原村・松原湖)
- 24・25日・移住検討者向けツアー「ミチシル旅」第2弾(村内各所)
- 27日・学校運営協議会(いいたて希望の里学園)
- 28日・福島県立医科大学保健科学部実習(いいたてホーム)
- ・定例教育委員会(村役場)
- ・第4回川俣町・飯館村小学生陸上交歓会(いいたてスポーツ公園)
- 30日・新型コロナウイルス集団接種(いちばん館)
- ・YOITOKO発見! ツアー検討委員会(交流センター「ふれ愛館」)

## 話題のパレット

### 輝くオリンピア畑が出現

9月上旬、大久保・外内地区に見事な『いいたてオリンピア畑』が現れました。この花畑は、地区の皆さんが丹精を込め、何年もかけて手入れをしてきた場所。今年は特に草刈りや防虫に力を入れ、管理に努めました。新芽の時期にどういふ訳か、茎の上部が一斉に失くなり、食害かと心配しましたが、かえって株が密になり、数多くの花が咲いたそうです。株自体も年々大きくなつていて、大輪の赤い花が、鮮やかな景色を見せました。



### 飯館村野球連盟理事長杯



白熱の試合展開が続き、熱く盛り上がりました。

9月4日、いいたて球場で『飯館村野球連盟理事長杯』が3年ぶりに開催されました。大会は「ファイターズ」「ファーマーズ」「上飯樋野球クラブ」「飯館村役場」の参加4チームによるトーナメント戦で行われました。チームの枠を越えて交流を深めながら、笑顔でプレーしていた選手の皆さん。楽しそうな声が球場の外まで響いていました。

優勝 飯館村役場  
準優勝 ファイターズ

### 美術展で民友新聞社長賞



受賞作品「葛(くず)繊維ののれん」と。

川崎弘子さん(深谷)が、第31回福島県シルバー美術展で福島民友新聞社長賞を受賞しました。受賞作の「のれん」は、葛の繊維で織り上げた生地に、草木染めした絹糸や、麦の茎、キャットテールなどの植物を配置した優しいデザイン。川崎さんは「受賞は驚きでしたが、多くの作品に触れることができ、出品してみてもよかったです」と話していました。



### 初秋の空を見上げるムクゲの花畑

菅野哲さん(草野)が、佐須地区の農地にムクゲを植えています。道路から見上げた時に、花の絨毯のように見ればと、5段の農地のそれぞれの畦に植えました。植樹から4年。満開を迎えたムクゲが、夢見心地の淡い色で、農地をやさしく染めました。



## はなれていても

佐藤 聡太さん(前田・八和木 埼玉県所沢市在住)



宇都宮大学から東京大学の大学院に進んでからは2つのプロジェクトに取り組みました。『までいラボ』では千葉県山武市に牛を引き連れ避難した小林将男さん(関沢)の飯館牛の血統を継ぐ「までい牛」のPRを行い、村のイベントにも仲間と共に参加しました。もうひとつのプロジェクト『いいはなでは大久保金一さん(小宮)の「自分の土地

を活かして、たくさんの人に村へ来てほしい」という想いを知り、村の形をした飯館花壇を多くの方と作りました。今でも当時の仲間や職場等の友人に声をかけ、小林さんとまでい牛を食べたり、大久保さんと飯館花壇の補修や草むしりを行っています。

当初は少しでも早く村に戻ろうと考えていましたが、農水省で働き、自分にはまだまだ知識や経験が足りないことを実感しました。仕事を通して、日本の農村の地域づくりに携わり、多くの経験を積んだ上で村に貢献できる人材になりたい。これからも村を訪れ、いろいろな方と関わり、村の活性化に携わりたいと思っています。

れている方がたくさんいます。が、避難による猟友会員の減少や高齢化もあるため、鳥獣被害の更なる深刻化が考えられます。離れていても何かできないかと考え、まずは狩猟免許を取得しました。学んだ知識を活かして、鳥獣被害対策実施隊の原田直志さん(深谷)の見回りに同行させてもらい、村をめぐっています。

## 交流センター「ふれ愛館」だより 「図書ボランティア」の活動



9人に増えた図書ボランティアの皆さん。毎月購入している図書や大切に保管している『ほんの森いいたて』の本を活用して、交流センターの図書の入れ替え・整理を行ってくださっています。また、コロナ禍により休止していた読み聞かせを再開し、希望の里学園やこども園でも活動しています。

## 「オーブンガーデンいいたて」の花

今年度も「オーブンガーデンいいたて」の松原光年さん(小宮)が、交流センターの玄関に、素敵な生け花を飾ってくださいます。交流センターにお越しの際は、美しい季節の花々を、ぜひお楽しみください。



## 地域おこし協力隊 いいたてDIARY

風の匂いに夏の終わりをを感じる季節です。

移住当初、エアコンがない家が現代に存在する事に驚愕。流石に我が家は冷房を使いますが、住んで納得。真夏の10日間程しか冷房を使わないエコな村。懐にもエコ、最高です。

そんな真夏真っ只中の8月初旬。風の子広場で開催の「いいたて風の子マルシェ」に、「いいたて結い農園」として参加しました。

荳蔻の風味を感じてもらおうと、甘じょっぱい荳蔻ペーストを地元のお姉様に依頼し、クラッカーにのせてお客様に試食していただきました。大好評で、荳蔻の実と油のセットは完売!! 地元の方やお客様と沢山話が出来た楽しい1日。10月の開催も今から楽しみです。



「山の向こうからvol.5」は延期となりました。次回開催の詳細はInstagram:山の向こうからでご確認を▼



今月のライター  
飯館村地域おこし協力隊  
二瓶 麻美さん

## おいしい飯館！までいの食卓

生産者の皆さんにおいしい食べ方を聞いてみよう！



茎丈は2m程に成長します。外葉を取り緑の部分をピーラーで薄くむいて調理します。

マコモタケの巻

### 取りがけの味わいは秋だけのお楽しみ

20年程前、新たな産品にと取り寄せたマコモタケ。当時お世話になった三重県の生産者とは、今も交流があります。マコモタケは「マコモ」の茎に黒穂菌(くろほきん)が付いて肥大化したもので、食物繊維やミネラルが豊富な健康野菜です。食感がよくクセがないのでいろいろな料理で楽しめます。取りがけは生でも食べられるんですよ。タケノコのように水煮にして保存することもできます。



マコモタケご飯

マコモタケたっぷりの混ぜご飯。炊き込みご飯にしてもOK。人参や油揚げをプラスしてもいいですね。



齊藤 修一さん(深谷)

早起きをして主に自家用の野菜やハーブを30種ほど育てています。



シャキッとキンピラで

スライスしたマコモタケをキンピラに。食感を楽しめる一品です。クセがないのでお肉や季節の野菜と一緒に炒めてもおいしいですよ。辛味はお好みで。

皮を付けたままオープンで素焼き、または蒸し焼きに。皮をむいていただきます。



素焼きで香りを際立たせる

往くを聴といい 来るを聞といふなり

第3回

杉岡 誠 村長の 愛楽故郷味

あいらくふるさとみ



ふるさと飯館村の「味わい」を愛し、楽しむ「愛楽故郷味（あいらくふるさとみ）」。

9月19日「敬老の日」には、ご家族皆さままでお祝いをなされたことと思います。

村としても9月11日に敬老会を開催するための準備をしておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大がおさまらず止む無く中止を致しました。来年こそは、御歳を重ねられた日々を想い、皆さまのご長寿とご健康を喜び、お一人お一人を「うやまう」場を設けさせていただきたいと思っております。どうぞ「健やか」にお過ごし下さいますようお願い致します。

最古の漢字辞典「説文解字」に「往くを聴といい、来るを聞といふなり」という言葉があります。「出かけて往(い)つて聴くことを『聴』と言ひ、聴いて知らされたことが来て(聞こえて)心に染み入ることを『聞』と言う」と訳されます。ともに「きく」と読む漢字でありながら、「聴く」は自ら積極的に聴くこと、「聞く」は自然(じねん)に聞こえてくること、英語で言えば前者はListen、後者はHearと言うことでしょう。言の葉の深淵に触れることにも「わくわく」を感じます。

9月3日、4日、10日と、村内で3回、村外で2回の計5回にわたり、村民の皆さまのお声を聴く住民懇談会を開催しました。

今回初めて開催しました住民懇談会は、正しく「聴く」ときに重きをおいたものでした。「わくわく」できる生活を送れるように、自分なりに「わくわく」を探したい。村にもそんな政策を進めてほしい」といった期待を込めたご意見等も頂戴し、大変意義深いものとなりました。

皆さまのお声を聴く、聞く中での「気づき」や「学び」を、新たな「わくわく」へと繋げていきたいと思っております。

ふるさと資源

発掘図鑑!



#道の駅にハチ公が登場

平成25年に渋谷公園通商店街振興組合から飯館村に贈られた「忠犬ハチ公」のオブジェが、道の駅「までい館」に展示されています。壁面には「東大むら塾 飯館班」の鎌倉啓伍さんによる研究資料が掲示されていて、このオブジェの生い立ちを含む「忠犬ハチ公」の物語を楽しむことができます。

皆さんからの情報や投稿でつくるページです

どなたでも投稿できるコーナーですので皆さんも身近な話題をどしどしお寄せください!

飯館村広報委員会(村づくり推進課企画定住係)

☎0244-42-1613



#空に見とれた日



上の写真は、9月20日、大井美千子さん(草野)がスマートフォンのカメラでとらえた夜明けの空。雲のグラデーションが神秘的で美しいですね。下の写真は、同じ日に村役場で撮影した夕焼け空です。雨に濡れたアスファルトまで、オレンジ色に染まっていました。

ひとのうごき

結婚おめでとう

氏名	出身地
庄司 伸也さん	伊丹沢
大槻 桃子さん	伊達市

HAPPY WEDDING!

ひとのうごき 令和4年8月31日現在

人口	今月(前月比)	8月1日~31日までの人口動態
●男	2,458人(-10)	転入 0人
●女	2,444人(-6)	転出 12人
計	4,902人(-16)	出生 0人
世帯数	1,812戸(+1)	死亡 4人
		(住民基本台帳人口)

(8月21日から9月20日までに届け出のあったものを掲載)  
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へ申し出てください。

おくやみ

氏名	年齢	行政区
佐藤 初代さん	80	関沢
佐藤 ナツイさん	86	前田
高田 道男さん	90	関根・松塚
菅野 益男さん	70	長泥
浦住 貞子さん	87	前田
菅野 ミイさん	91	長泥

ご冥福をお祈り申し上げます

村民広報委員 ぶじおさんの

いいさて 宝さがし 第3回

急に秋になった頃

相馬市に住む神野クニミさん(長泥)を訪ねました。避難する前、素晴らしい習字(日本習字連盟)を書かれていたことを知っていたからです。また、日本舞踊(藤山流)にも精通されていて、飯館の文化祭などでも披露されていたと聞きます。

現在は、写経をしたり、「ころころ草履(ヨコスカスリッパ)」やチラシなどを再利用した手作りカバンを製作したりして、東京のイベントなどにも出品しているとのこと。

「避難した相馬市で旦那さんを亡くして少し寂しい思いをしましたが、いろいろな趣味を続けることで、一人で毎日を楽しく元気に暮らしています」と語ってくれました。長泥に住んでいた頃の思い出が私の宝だとも話してくれました。

帰り際、白い秋桜がひとり暮らしを応援するかのよう、ゆるく揺れていたのが印象的でした。



# 互いの声を聞き合う意義を実感 村内外で住民懇談会を開催しました

具体的で貴重な情報共有がありました。

9月3日・4日・10日に住民懇談会を開きました。コロナ禍の影響で開催が見送られてきた懇談会ですが、今回は日時を分け感染防止の対策を講じて実施することができました。のべ約100人の村民が参加し、対話を通して課題を共有した他、村政のさまざまな分野に提案をいただきました。



交流センター「ふれ愛館」。数多くの発言をいただき充実した懇談会となりました。

初回は「ウィル福島アクティおろしまち」(福島市)で、2回から4回目は交流センター「ふれ愛館」で、5回目は「かしま交流センター」(南相馬市)で開催しました。懇談の時間を確保するため、村政方針と事業の説明は要点に留め、詳しくは配付資料で補完。懇談では、事業の進め方や課題への対応について、数多くの質問、意見、要望をいただきました。また、村づくりに対する具体的な提案も相次ぎ、将来を見据えた意義深い対話が続きました。

要望・提案などは各課に伝達され、着手可能なものから改善が検討されています。



9月10日、「かしま交流センター」会場。



9月3日、「ウィル福島アクティおろしまち」会場。

## 〈編集後記〉

●通勤路を通るたび、黄金色に色付いていく稲穂。晴れの日の青空とのコンビは、思わずカメラを向けたくなるような景色です。村内には、見惚れてしまうような四季折々の景色が、たくさんあります。まだまだひそむ村の魅力も、広報紙を通して、村のイベントを通して、多くの方に知っていただくのが、この頃です。(星)

●取材の機会を通して、飯館村にはなんてたぐさんの人の想いがあふれているのだろうと感激をしたひと月でした。暮らす人も、訪れる人も、離れて暮らす人も、想っている。日々色づいていく里山の景色にも、みんなの想いが宿っているように感じています。(星)

# Native Speakers

ネイティブ・スピーカーズ  
飯館言葉の達人たち

第18回



その意味は…

かがらしくって  
しかも  
じゃんがぶ?

スマホのカメラをかざしてYouTubeで見てね

または検索で!

飯館村 YouTube